

モビリティ・マネジメントの取組について

市では、市民や企業等に対し、公共交通の利用意識の向上を図り、公共交通の利用を促進するため、モビリティ・マネジメント(※)に取り組んでいる。

(※)モビリティ・マネジメントとは

個人、組織、地域のモビリティ（移動）が、社会的にも個人的にも望ましい方向（過度な自動車利用から公共交通等を適切に利用する等）に自発的に変化することを促すコミュニケーションを中心とした交通政策、取組のこと。

1 住民説明会及び出前講座の開催

(1) 開催目的

今後計画しているバス交通の見直しについての周知を図り、バス利用を促進するため、平成31年3月に策定した市の新たな公共交通網計画である「三木市地域公共交通網形成計画」等に係る住民説明会及び職員が地域に直接出向いて説明する「出前講座」を開催している。

(2) 開催状況（前回会議(令和元年8月23日)以降の開催状況)

ア 住民説明会（「北播磨総合医療センター方面行きバスの見直し計画」(案)）

地区名	開催日	開催場所	参加人数
1 志染	令和2年 7月14日 (火)	志染町公民館 1階 大会議室	10人
2 別所	令和2年 7月15日 (水)	教育センター 4階 大研修室	12人
3 口吉川	令和2年 7月16日 (木)	口吉川町公民館 1階 健康相談室	6人

4	緑が丘 青山	令和2年 7月18日 (土)	緑が丘町公民館 2階 中会議室	44人
5	細川	令和2年 7月19日 (日)	細川町公民館 1階 大会議室	19人
6	緑が丘 青山	令和2年 7月19日 (日)	青山公民館 2階 中会議室	40人
7	三木 三木南 別所	令和2年 7月21日 (火)	教育センター 4階 大研修室	18人
8	三木	令和2年 7月22日 (水)	中央公民館 2階 研修室1・2	6人
9	吉川	令和2年 7月23日 (木)	山田錦の館 1階 研修室	8人
10	吉川	令和2年 7月24日 (金)	山田錦の館 1階 研修室	2人
11	自由が丘	令和2年 7月27日 (月)	自由が丘公民館 1階 講座室	28人
合 計				193人

※主な意見の内容については別紙8-1を参照。

イ 出前講座

開催日	対象者	参加人数	場 所
令和元年 8月25日 (日)	老人会みなぎクラブ の会員	40人	みなぎ台北 集会所
令和元年 10月19日 (土)	下町ふれあいサロンの 参加者	20人	下町公民館

令和元年 11月8日 (金)	三木南地区区長協議 会	8人	三木南交流 センター
令和2年 7月3日 (金)	三木南地区区長協議 会	8人	三木南交流 センター

(3) 開催概要

ア 対象

市内の各種団体（自治会、老人クラブ、子ども会、PTAなど）

イ 内容

「三木市地域公共交通網形成計画」の内容、バス交通の見直し内容など

ウ 申込

開催希望日のおおむね1か月前までに、電話で申込

エ 申込先

(市)都市整備部 交通政策課 交通政策係

TEL 0794-82-2000(代) (内線 2296・2297)

2 バスの安全教室の開催

(1) 開催目的

モビリティ・マネジメントの取組の一環として、日頃バスを利用されていないかたや、市の将来を担う子どもたちに公共交通の役割や仕組みについて知ってもらい、公共交通への理解を深め、慣れ親しむ一助とするため、バスの安全教室を開催している。

(2) 前回会議(令和元年8月23日)以降の開催状況

開催日	対象者	参加人数	場 所
令和元年 11月10日 (木)	細川町民文化祭 来場者	20人	細川町公民館

(3) 開催内容

- ア 来場者が自由に乗車体験できるように車両を開放
- イ ニコパカードを用いたICカード乗車体験

(4) 開催時の写真



(5) 参考（過去の開催実績）

開催日	対象者	参加人数	場 所
平成 25 年 6 月 25 日 (火)	口吉川小学校 1～3年生の児童	21 人	口吉川小学校
平成 26 年 9 月 5 日 (金)	豊地小学校 1～3年生の児童	33 人	豊地小学校
平成 28 年 6 月 9 日 (木)	口吉川小学校 1～3年生の児童	34 人	口吉川小学校
平成 28 年 6 月 21 日 (火)	三木シルバーいきいき 教室の参加者	約 80 人	中央公民館
平成 29 年 6 月 16 日 (金)	東吉川小学校 1～2年生の児童	23 人	東吉川小学校
平成 30 年 6 月 15 日 (金)	東吉川小学校 1～2年生の児童	16 人	東吉川小学校
平成 30 年 10 月 10 日 (水)	吉川町公民館高齢者 教室「ことぶき学級専 門講座」の受講生	47 人	吉川町公民館
令和元年 7 月 11 日 (木)	東吉川小学校 1～2年生の児童	18 人	東吉川小学校
令和元年 8 月 8 日 (木)	緑が丘アフタースク ール(小学校1～4年 生)の児童	63 人	緑が丘アフ タースクー ール(緑が丘小 学校内)

「北播磨総合医療センター方面行きバスの見直し計画」(案)に関する住民説明会の開催
実績について

(単位：人)

地区名		開催日	参加者数	主な意見の内容
1	志 染	7/14(火)	10	<p>○ バス停間隔は300メートルであると思うが、高齢者にとって家からバス停までの距離がづらい。</p> <p>⇒ バス停圏域については300メートルが目安となっている。バス停間隔については車両が安全に停車できるかどうかにもよるため、バス停の新設に当たってはバス事業者にも確認する必要がある。</p> <p>なお、志染地区における地域ふれあいバスの導入に向け、昨年度に区長協議会に検討依頼した経緯があり、その際は継続協議とする方向性となっている。</p> <p>このため、最寄りのバス停までの移動手段としても身近な地域ふれあいバスの活用について、志染地域においても検討いただきたい。</p> <p>○ 窟屋地区では運転免許証を返納している高齢者は少ないように思う。なぜなら、このように減便されると、「バス利用が不便になり、バスを利用しなくなる」という悪循環に陥り、免許証を返納しようにもできないためである。</p> <p>⇒ 道路交通法の改正により、高齢者の運転免許証の更新時には運転技能検査が義務付けられることとなり、移動手段の確保の検討はますます必要となると考える。</p>

				<p>このたびの見直しが最終ではなく令和4年4月に次回見直しを実施する予定であり、今後とも、5年間の計画期間の取組の中で利用状況を分析・把握し、見直しを継続していく。</p>
2	別所	7/15(水)	12	<p>○ このたび、別所町公民館ではなく、平日の昼間に教育センターで開催したのはなぜか。必要な治療で医療センターへ行くのと、この話を聞きに教育センターへ行くのとでは必要度合いが違う。</p> <p>⇒ 従来は夜に各公民館で開催していたが、実際のバス利用者から、高齢者が外出しやすい昼間の時間帯での開催を検討してほしいとの要望もあり、あらかじめ各地区の会長にも諮った上で、このたびは昼間で別所地区のバスのアクセスがある教育センターを会場としたものである。</p> <p>なお、今後の住民説明会の開催に当たっては、各地区に相談の上、開催時間及び開催場所を考えることも必要と考える。</p> <p>○ バスの見直しの説明会は、廃止前提で開催されているのか。</p> <p>⇒ 当初は路線の全線廃止も視野に入れていたが、市全体としてはいくらか改善傾向がみられたところである。これは、市民が危機感を持ってバスに乗車されたためではないかと考えている。</p> <p>このため、見直しは必要であるものの、現在は路線を維持する方向で考えている。</p>
3	口吉川	7/16(木)	6	<p>○ 口吉川・高畑ルート（110系統）を維持してほしい。日中、家族の運転が確保できない人がたくさんいる。現在の便数を残してくれないと安心して利用できないし、運転免許証も返納できない。三木市民病院から北播磨総合医療センターへシフトした責任を持ってほしい。</p>

				<p>⇒ 医療センターが開設した7年前と比べ、バスの利用状況も変わってきている。開設当初の路線は直通バスで途中乗降できなかったが、平成27年10月に途中乗降できるように見直した。以降、数回見直しているが、利用状況が改善されていない路線もある。その中で乗務員不足もあり、利用実態の少ない路線及び便数の確保が困難となってきた。</p> <p>○ 3か月に1回程度、口吉川町公民館発のルートを利用していたが、自分しか乗っておらず廃止されてもしかたがないと思っている。しかしながら、診察が遅くなった際に、「三木営業所行きを増やしたから、そこから吉川方面へ乗り継いで」といわれても、どのバスに乗ればよいのか分からない。</p> <p>⇒ 三木営業所はバスが多いため分かりにくいところはあるが、吉川方面行きのバスは遅い時間帯まで運行しているため、市や営業所で聞いていただきたい。</p> <p>仮にバスに乗れなかったとしても営業所までの便はあるため、乗換えまでの待ち時間に商業施設で買い物をしていただくなど、生活スタイルを少し変えていただくことで時間の有効活用ができると考える。</p>
4	緑が丘・青山①	7/18(土)	44	<p>○ 高齢化が進んでいるため、ダイヤの見直しは続けてほしい。</p> <p>⇒ 運転免許証の返納者が年々増えているため、医療センターへの通院用だけでなく、市民生活バスとして多方面へ出かけられるようにしたいと考える。</p> <p>○ 10月1日の改正時刻表を、10月1日を過ぎてからではなく事前に早く知りたいため、回覧等で回付してほしい。</p> <p>⇒ 昨年度に作成した「三木市公共交通総合時刻表」は1冊当たりが重く、地区役員には配布に当たりかなりの御苦勞をお掛けした。このため、本年度については回覧や広報等で周知はするが、必要な方には公民館等に取りに行ってください。</p>

				ように考えている。
5	細川	7/19(日)	19	<p>○ このたびの見直しでは三木営業所に路線を集約し、ハブ拠点とする考えはなかったのか。</p> <p>⇒ 御意見の内容も検討したが、各方面から三木営業所までの延長が路線延長の大部分を占めており、費用面で大きく変わらなかった。また、各方面からのバスが三木営業所に集結することとなるが、現状の営業所には全てのバスが滞留できるスペースがなく、別途、用地を確保する必要があるなど、かえって経費が割高となることから、このたびは三木営業所止まり、三木営業所からの乗継ぎ案は採用しなかった。</p> <p>○ 上の丸から市役所行きの時刻表など、路線が分かりにくい。また、乗継ぎが複雑である。</p> <p>⇒ 市が発行している総合時刻表などで確認いただきたいが、事前に市へ問い合わせしてほしい。</p>
6	緑が丘・青山②	7/19(日)	40	<p>○ 緑が丘・青山ルート（106系統）は見直し基準を全てクリアしているにもかかわらず、なぜ路線を残さないのか。</p> <p>⇒ 緑が丘と青山地域は個別の路線で見るとクリアはしているが、トータルで見ると一部見直しを要する路線も含まれているエリアである。</p> <p>「三木市バス交通の見直し方針」においては、昨今の深刻なバスの運転者不足の状況にも十分に留意しながら、見直し対象外のバス路線であっても、見直し対象のバス路線の影響を受け、これらの路線との統廃合をはじめ、減便、ルート変更などを行うこととしている。</p> <p>このため、106系統についても、見直し対象路線の影響を受ける形となった</p>

				<p>ものである。</p> <p>○ このたびの見直しは青山地区にメリットがないのではないか。一般道を運行すれば、朝は特に時間がかかる。これは80歳を過ぎた高齢者にとっては酷である。</p> <p>⇒ 青山地区についてはバスの利用状況が自由が丘や緑が丘地区に比べ少ないことを踏まえ、一般道を運行することとしたものである。</p> <p>青山地区の医療センター利用者は年間延べ4,200人で、仮にその全員がバスを利用したとしても1便当たり1.2人である。この中にはマイカー利用者もいるため、実際には、青山地区からは1便当たり1人にも満たないと考えられる。</p> <p>しかしながら、これが最後の見直しではなく、今後とも利用状況を分析・評価し、次回は令和4年4月に見直しを実施することとしている。</p>
7	三木・三木南・別所	7/21(火)	18	<p>○ 市内全域では月当たり約500人の乗車人数が増えているにもかかわらず廃止するのはなぜか。お金の問題であるのか。</p> <p>⇒ 市内全域では増えていても、個別にみると見直しが必要な路線があるためである。</p> <p>○ 神戸電鉄とジョイントできないのか。</p> <p>⇒ 神戸電鉄榎山駅から医療センターへのシャトルバスが運行している。榎山駅の下りホームに乗車証明書発行機があり、医療センターでその乗車証明書を提出すれば300円の補助を受けることができる。</p>
8	三木	7/22(水)	6	<p>○ 医療センター利用以外の利用者の割合はどのようなものか。</p> <p>⇒ 路線バスのため医療センター以外の利用もあるが、全利用者の7～8割は医療センターで乗降されている。</p>

				<p>○ 空バスであるのに走らせるのは無駄ではないか。医療センターは予約制で1か月以上前から通院する日が分かっているため、予約制にすれば無駄がなくなるのではないか。</p> <p>⇒ 予約制の運行は人口の多いところでは不向きである。デマンド型交通もあるが、人口が少ないところ向きの運行形態である。</p> <p>まちなかでは利用者の行動パターンがさまざま、定時定路線型のほうが効率がよい。</p>
9	吉川①	7/23(木)	8	<p>○ 北播磨総合医療センターの開設当時は、交通が不便になることはないとの説明を受けた。しかたがないこととは思いますが、減便される吉川・口吉川ルート（109系統）の始発ダイヤは残してほしい。</p> <p>⇒ 利用の少ない昼間時間帯の減便を考えており、便数を集約した上で路線は残すこととしている。</p>
10	吉川②	7/24(金)	2	<p>○ 乗車人数が少ないのを見かけるにつけ心が痛むが、市民のための市民病院へ行くのにどうしてこのように苦労しなければならないのか。いくら赤字を出してもよいので、市民の健康を守ってほしい。</p> <p>⇒ バスの運転者、バスの台数、資金が十分にあれば運行も可能であるが、一方では、ほとんど利用されていない事実に対しても批判を受けている。これも路線を残していく手段として集約するもので、今後とも利用のある必要な路線は残していきたいと考えている。</p>
11	自由が丘	7/27(月)	28	<p>○ 市補助金が見直し後9,600万円になるとあるが、医療センタールートの開設当時、補助金がいくらになると見込んでいたのか。また、今後いくらくらい、何年後くらいまで補助金を見込んでいるのか。</p>

				<p>⇒ 当初は2億5千万円でスタートしたが、最終いくらかというのは利用状況により変わってくるため、現段階では目標値は設定していない。</p> <p>なお、一律運賃200円の補填として、別途、約6千万円を市が負担していることも併せて御理解いただきたい。</p> <p>○ 運転免許証を返納したため、月に1回は自由が丘西ルート（104系統）を利用しており満足している。路線は無駄ではない。</p> <p>⇒ 公共交通は市民に密着した移動手段として、「地域を支える必要経費」という側面があるため、今後とも状況を判断しながら対応していく。</p>
	計	—	193	—

注) 開催日順に記載。